

# 令和4年度 第44回 大学院セミナー

令和4年11月11日

講座名 (責任者名)(内線)	原爆後障害医療研究所 放射線生物・防護学分野 責任者名 (宮崎 泰司) 内線 (7150)
演題	第166回 原研研究集会 (166th GENKEN Research Seminar)
講師等	阿部 悠 先生 (放射線生物・防護) Yu Abe (Radiation Biology and Protection) 玉熊 佑紀 先生 (放射線総合センター) Yuki Tamakuma (Center for Radiation Research and Education)
概要	<p><b>染色体分析における基礎的条件の最適化</b>  <b>Optimization of the basic conditions in chromosome analysis</b></p> <p>染色体分析は、がんの確定診断から出生前診断や放射線被ばく線量の評価など医療分野を中心に広く用いられる分析手法である。この染色体分析法における課題はいくつか挙げられるが、中でもボトルネックとなっているのが画像分析であり、標本作製時の条件によっては染色体の凝縮が強くなり、分析が難しくなるという特徴がある。この条件の解明及び緩和に関する進捗について報告する。また、これまでに報告例のほとんどない日本人における染色体異常頻度の自然発生率に関する進捗についても紹介する。</p> <p><b>エアロゾル粒径に応じた自然放射性核種による吸入被ばく線量</b>  <b>Inhalation dose assessment for short-lived radon progeny based on aerosol size distribution</b></p> <p>世界の自然放射線・放射性核種による被ばく線量の約半分は大気中自然放射性核種であるラドンの短寿命子孫核種に起因する。これらによる吸入被ばく線量はそのエアロゾル粒径分布に依存することが知られている。環境によってエアロゾル粒径は変化するため、屋外環境及び観光用洞窟内で測定された実際のエアロゾル粒径分布を用いてラドン子孫核種による線量換算係数について計算し、その影響について紹介する。</p>
開催日時	令和4年11月30日(水) 17:30 ~ 18:30
開催方法	オンライン (ZOOM)
備考	<p>受講を希望する場合は、ID・パスワードをお教えしますので、必ずご連絡ください。(Email : <a href="mailto:abeyuh2@nagasaki-u.ac.jp">abeyuh2@nagasaki-u.ac.jp</a>)</p> <p>If you would like to participate in this seminar and need Zoom ID and Password, please contact Dr. Abe. (Email : <a href="mailto:abeyuh2@nagasaki-u.ac.jp">abeyuh2@nagasaki-u.ac.jp</a>)</p>

先端医療科学特論 (基礎編)

先端医療科学特論 (臨床編)

先端新興感染症病態制御学特論

先端放射線医療科学特論

日本語 (Japanese)

英語 (English)

対面

オンライン